

第6回アジア文化理解講座

# 多民族国家・マレーシアの共生社会

## —教育・文化・民族関係—

マレーシアは、マレー系、華人系、インド系といった主要民族に加え、イバン族やカダザン・ドゥスン族などの先住部族を包含する典型的な多民族国家です。独自の文化や宗教を持つ人々がどのように調和して暮らしていくか——。この「多民族的共生」は、マレーシアという国家を支える最も重要な価値観の一つです。

1957年のマラヤ独立、そして1963年のマレーシア連邦結成から約70年。その歩みは単なる一方向的な融合ではなく、時には摩擦を乗り越え、絶えず調整を繰り返しながら進化してきました。グローバル化が進む現代において、各民族の誇りや禁忌を尊重しつつ、いかに「国民形成（ネイション・ビルディング）」を成し遂げるかは、今もなお重要な議論的となっています。

本講演では、教育制度の多様性、文化変容の複雑性、民族関係の歴史の変遷という3つの視座から、マレーシア共生社会のリアルな現状と、これからの課題について探ります。

2026年 **5/20** 水 14:40~16:10

参加料：無料

事前申込不要

※当日会場に直接  
お越しください

静岡県立大学 草薙キャンパス 国際関係学部棟 3315教室 ※対面のみ

- コメンテーター 富沢 壽勇（静岡県立大学 副学長・グローバル地域センター 副センター長）
- 司会進行 奈倉 京子（静岡県立大学 国際関係学部教授）

● 講師



### 何啓才

マラヤ大学人文社会科学部中国語学科主任。同大学マレーシア華人研究センター副主任。専門はマレーシア華人史。華人団体（アソシエーション）、華文教育、エスニック関係（族群関係）など多岐にわたる研究を展開している。

主な著書：『潮遷東殖：マレー半島東海岸潮州人の移住史と会館史略』（単著、2015年）、『晋風南揚：マレーシア晋江コミュニティと団体』（共著、2019年）、『休戚与共：マレーシア左翼運動史論集』（単著、2023年）、『漫遊海上絲路』（共著、2024年）、『防疫と養生：保生大帝信仰と民間医療文化』（編著、2025年）、『双溪大年（スンガイ・パタニ）華人社会史』（分担執筆、2026年）、『家国\*の選択：1950年代マレーシア華人作家の評論』（共編、2026年）など。

※「家国」とは：中国伝統文化において「家庭」と「国家」を不可分の共同体として捉える概念。

主催・お問い合わせ

静岡県立大学グローバル地域センター

TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603

<https://www.global-center.jp/> E-mail: [glc@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:glc@u-shizuoka-ken.ac.jp)